花ごよみ No.25

谷川岳のエーデルワイス
（ホソバヒナウスユキソウ）

横山　登

細葉雛薄雪草（ホソバヒナウスユキソウ）ミヤマウスユキソウの変種。
≪谷川岳の西黒尾根上部で撮影≫

山行、撮影時期は６月。土樽駅から茂倉新道を登り茂倉岳～一の倉岳～谷川岳～西黒尾根を下山、そして土合駅までの約 15 ㎞程度のコースです。前日、土樽駅でステーションビバーク。この時期、国境稜線は百花繚乱。主な高山植物はコイワカガミ・マイヅルソウ・タニウツギ・ハクサンチドリ・ゴゼンタチバナ・ウラジロヨウラク・シラネアオイ・キンポウゲ・

ハクサンイチゲ・

ミヤマオダマキ・ミヤマキンバイ・ハクサンコザクラと数えきれない種類の植物が咲いています。その中でも≪細葉雛薄雪草≫は特別です。昭和 50 年代から谷川岳に登っていて指導センターの写真では知っていましたが初めて見ました。感激でした。谷川岳の花の見頃は６月中旬からで例年梅雨の中で雨と霧で悩まされる厳しい山の中、花々に心が癒されます。

花ごよみ No.24

マユミ(真弓)ニシキギ科

飯嶋 龍

マユミの花はまだ見たことがない。初めてマユミの実を見たのは、10 年ほど前の 12 月、積雪がある時に箱根の乙女峠から丸岳、長尾峠を歩いたときだった。雪が白くついた枝にかわいいピンクの花が付いていた。あとで調べてみるとそれは、マユミという木の実だった。
（木質が緻密でゆがみが少なく耐久性に優れるため、弓の材料として用いられたところに由来する。）
上の写真は、今年の 10 月 22 日大分県の鶴見岳に行った時にのものです。大分県は暖かいのか、まだ葉は青々している。まるで枝垂桜の花のようにも見える。マユミの花は、まだ見ていないので花の咲くころに箱根の山に行きたいと思っている。

右の由布岳のすそ野をバックにした「マユミの実」
こちらは風が強いのか葉が落ちている。

鶴見岳から見た「由布岳」ガスの切れ間から

花ごよみ No.23

イヌショウマ（犬升麻）

堤 淳

サラシナショウマを知っている方は多いと思う。初秋の草原に白い花穂をつけて風に揺れている様は美しい。

９ 月末、花の写真を撮ろうと高尾山に行った。高尾山は、花の宝庫だ。サラシナショウマに似ているが、明らかに違う花を見つけ、ビジターセンターに名前を聞きに行く。“これはイヌショウマです。高尾山には多く見られます。”と教えてくれた。

イヌショウマは花が茎に直に付いているがサラシナは、数mmの花茎がある。近かくで見ると良く分かる。６ 号路にも多くあったが、草戸山への入り口すぐにも咲いていた。こんなきれいな花をどうして今まで気が付かなかったのだろうか？草丈は１mほどもあり、２０ｃｍぐらいある白い花穂が一杯付いている。先のほうの花芽は薄茜の丸い愛らしい蕾だ。

ところで植物には、イヌ（犬）が頭に付く名前のものが多くある。基本の植物に比べて、貧弱である、又は有用性が無いとの理由であるらしい。何とも不愉快！
一つは大自然の賜物に優劣を付ける非、もう一つは犬に対して失礼だ。私は戌年生まれの大の犬びいきなのだ。犬ショウマは若芽が食用にならないので犬らしい。

キンポウゲ科
サラシナショウマ属の多年草　林内の湿気の多い所を好む

イヌショウマ

サラシナショウマ

花ごよみ No.22

ハヤチネウスユキソウ

蔦 由

2003･7･22　早池峰山8合目付近で撮影

キク科の多年生の花。ウスユキソウは世界に約３０種あり、日本には７～８種があるされている。

その中でもハヤチネウスユキソウは、ヨーロッパアルプスに咲くエーデルワイスに近く、大きく重厚な気品ある姿が登山者を魅了している。早池峰山の固有種で絶滅危惧種。早池峰山では他にミネウスユキソウとウスユキソウもみられる。

花の高さは、10～20ｃｍ。花弁のような純白の綿毛に覆われた包葉が星状に広がり、中心に淡黄色のおしべ、その縁に４～８個のめしべが集まっている。

花の時期は、７月から８月の上旬。標高 1400mあたりの乾燥した草地や岩礫の間に咲いている。　高山植物にある厳しい自然の中で毎年咲き続ける凛とした強さとこの花のもつ気品さが魅力の花である。ちなみに、エーデルワイスとは「気高い」との意味がある。

私が、最後に早池峰山に上ったのは、写真の日付からみて 10 年前だが、その時、盛岡からきたといっていたボランティアの登山者が、盗掘が多く以前は、６～８合目はもっと群生していたと話していた。

この花を取り上げるにあたり、無形文化財の早池峰神楽を観たいこともあって山行を計画したが、早池峰大祭に休みがとれない、東北の梅雨がいつまでも明けないなどで見送りになってしまった。もう一度是非会いたい花である。

花ごよみ No.21

彼岸花

深沢 明

彼岸花と言と巾着田を思い出す。「さんかくてん」の殆どの人がその地を知っていると思う。花の数 200 万本だとか。2009 年 9 月 20 日の「巾着田・彼岸花ハイキング」に参加した金子さんはその見事さに駅に張ってあるポスターよりきれいと会報に書いている。（写真は会報に乗っていたものをお借りしました。）

昨年陣馬山から影信山まで歩いていたら山道に点々と赤い彼岸花が咲いていた。前を歩いていた山ガールが同行者の山ボーイに「なんていう花？」と聞いている。「これ彼岸花よ、今日お彼岸でしょう、この時期に咲くのよ。」とすかさず横から口をいれてしまった。咲いている時期は長いのか昨年は 10 月上旬に会津田代山山行の際、会津田島までの沿線に咲き長い乗車時間を飽きさせなかった。

ウィキペディアによると北海道から琉球諸島まで咲いているとある。私の生まれた雪深い新潟県栃尾にもお墓や田んぼのあぜ道に沢山咲いていた。この花を見ると子供のころを思いだしてしまう。

ところで花の名所に花を見るのは午後に行くことを勧める。その理由はツアー客が午前で居なくなるからである。巾着田は物見山→高根山→日和田山と歩いた後で丁度良い。先日の日光高山にクリンソウを見に行った時ツアー客の多いのに驚いた。
彼岸花、クリンソウ等群落する花は沢山の人達を呼び寄せ感動を与えてくれる。

別名　曼珠沙華　天上の花　おめでたい事が起こる兆し根に毒がある。

花ごよみ No.20

ミズバショウ　水芭蕉

渋谷 恵

19歳の春 尾瀬に水芭蕉を見に行こうと誘われ楽しみにしていた。ところが失恋のあおりになり見ることがなかった。その後チャンスがなく3年前さんかくてんに入会し、翌年尾瀬に行くことができました。あいにく花の時期が終っていて残骸のみ。またしても残念！

今月初め白馬五竜・栂池自然園・八方池のパック旅行に参加。良い天気ではなかったが所々で雲がとれ五竜では残雪のそばに水芭蕉、栂池ではかれんな水芭蕉を見ることができた。

さんかくてんの皆さまにはおなじみの花でしょうが、私にとっては半世紀をかけての出合いでした。

花ごよみを依頼され10年前のデジカメを持って出かけるがどれもピンボケ。携帯のほうが性能が良いことがわかり技術の進歩に驚く。かんたんに歩きながらの撮影に対応できるカメラを購入して少しづつでも花の知識を深めたいな～と思っています。

花ごよみ No.19

ジャケツイバラ　蛇結茨

関根　佳

もう十年以上前でしょうか、中央線梁川駅近くを歩いていると、大きな木の下に
黄色い花がたくさん散っていました。「何の花？」と見上げていると、地元の方が「ジャケツイバラと言い、蔓が刺で木に絡みつき花を咲かせる。」と教えてくれました。その時は、とても高い所に咲いていたので花の姿はよく見えませんでした。

名前がユニークだし、ぜひ花を間近で見たいと、５～６月ころ山へ行くたびに探しましたが出会えませんでした。
その後、高尾の小仏川に沿って散策の途中、犬の散歩をしている女性と道連れになりました。百名山を完登し、山野草に詳しい方で楽しくおしゃべりしながら歩きました。荒井集落の山の斜面、梅林の中に高尾天満宮と言う小さな神社があります。神社のわきから急斜面をよじ登るように細い道があり、そこを登ると高尾蛇滝コースの途中から延びる林道に出ました。地元の人しか歩かない道のようです。　そして、その林道に「ジャケツイバラが咲いて綺麗ですよ。５～６月ころ見にいらっしゃい。」と！

ジャケツイバラ
（蛇結茨）
別名　カワラフジ
落葉つる性
花期４～６月
分布山形～沖縄　中国.朝鮮

幹や枝の鋭く尖った刺で他の木にからみつき伸びるため、どくろを巻く蛇にたとえて名前がついた。
花序は２０～３０㎝
黄の花弁は５枚で１枚だけ赤いスジがある。実は有毒。

翌年行って見ました。満開を少し過ぎていたため林道は落花で黄色に染まっていました。３～４本はあったでしょうか。藤の花を立てたような姿で咲いていて綺麗でした。草戸山近くの大地沢青少年センターにもあると聞き、出かけました。複雑にからみついた枝が大きく広がり、たくさんの花房は豪華で感激しました。そして裏高尾から八王子城址へ続く道にも、たくさん咲いているとの情報が！　来年は見に行きましょう！

花ごよみ No.18

すみれ 菫

高橋 美

墨壷（墨入）

「すみれ」というと日本人なら誰でも知っている花でしょう。「菫の花咲く頃初めて君を･･･」「山路来て何やらゆかしすみれ草(芭蕉)」「春の小川もサラサラ流る岸のすみれやレンゲの花も･･･」「春の野にすみれ摘みにと来し･･･」と身近に謳われてきた。地味な花であっても登山道で足許に見かけるスミレに春だなあという思いが湧いてくる。5 枚の花弁のうち距（きょ）（ここに蜜があり種子を蟻が好む）を持つ真下を向いた唇弁の花の形が大工の使う「墨入れ」に似ているらしい。スミレ類は世界に 400 種以上、日本には変種も多く 56 種もあり愛好家の多い日本を「スミレ王国」と呼ぶ。スミレ属スミレ科スミレ目なのだが「スミレはスミレでも何スミレなの？」となるとエッ？ムッ？ウーン？首を傾げる。立壷菫・壷菫・野路菫・丸葉菫・如意菫・匂菫・雛菫・小菫・葵菫・茜菫・･･･。私には全く区別できない。4 月 20 日に御岳高岩山にスミレを見に行った。6 種類くらいあり写真を撮ったが「何スミレ」なのかが分らない。

スミレ

◎ 葉っぱで見分けられるのがエイザンスミレ。比叡山で見つかったので「エイザン」が附いているが何処の野山でも見られる。葉が春菊の葉の様にギザギザに深く切れ込み鳥足状となる。似た葉を持つのにヒゴスミレやエゾスミレがある。日本の特産種。

エイザンスミレ

タカオスミレ

◎ 単に「スミレ」というのは葉が細長くて里山や登山道入口の辺りで見かける。マンジュリカ Viola mandshurica とも称す。塀の隙間や公園にも咲く。民間薬として腫れ止めに使う。

タチツボスミレ

◎ 芭蕉の句は「タチツボスミレ」を詠んだといわれる。淡紫の花を咲かせ、葉はハート型で葉柄の基部にギザギザの櫛の歯状托葉を持つ。

◎ 高尾山固有種に「タカオスミレ」があり登山道入口の道端に咲く。葉が茶色っぽくハート状披針形をしている。高尾の杜には 25 種のスミレが咲くという。

◎　オオバキスミレ（楕円形の葉の先端がとがる）やキバナノコマノツメ（丸葉が馬の蹄状）は花が黄色で葉の形状が異なるから簡単に分かるし高山でこれから夏に向け咲き出す。

スミレの同定は難しい。やはり野に置けスミレ草。名前はどうでもよいかスミレ草。春を告げる可憐な妖精を慈しんでよしとする。

花ごよみ No.17

ニリンソウ

和久井 君

山歩きをなさるたいがいの方は、ニリンソウと言ったらどんな花かはご存じではないだろうか。植物に鈍感なこの私でも何とかわかるが、その群落は見たことがなかった。

２年前だったか５月中旬に、上高地の徳沢園に一泊山行をしたときの折、ニリンソウの群落を見て大感激した記憶がある。それまでは、山へ行って景色は眺めても植物に関心を示さないのが私の実態でした。何度聞いても花の名前は覚えられず「ニリンソウ」と言ったら、あの川中みゆきの歌しか浮かばなかったのです。

河童橋は観光客でごった返し明神あたりで少なくなり、そこから先の徳沢園までは愕然と山屋さんだけの世界が広がっていました。

　まばゆいばかりの新緑が、梓川の両岸に広がっています。明神入口を過ぎて、徳本峠への分岐を過ぎたあたりから徐々に可憐な白い花が森の両側に群落を見せます。ため息をつく美しさが広がっています。ニリンソウを見て、ため息をつくなんてことは初めてでした。

上高地の勉強もしないで、ルートや山名ばかりに気を取られていたこともあり、改めて自然の美しさを感じた瞬間でした。

上高地では、次から次へと沢山の花と植物が待っています。蝶も鳥も待っています。また可憐な花を咲かせてくれる季節がやってきました。５月中旬からが見ごろとのことです。

ニリンソウ　　ニリンソウは山地や丘陵の林に自生するキンポウゲ科の多年草です。草丈 15 ㎝位で、早春に白い花を付けます。茎の上に 2 個の花を付けるという意味で2輪草と名付けられていますが、実際には1輪のものも3輪のものもあります。春植物で、林床が暗くなる6月頃に地上部は枯れてしまいます。

花ごよみ No.16

カタクリ

堤 淳

今は昔、さんかくてん入会の翌春、日光鳴虫山にヤシオツツジを見に行った。ツツジのトンネルの足元には、はからずもカタクリの花が咲き乱れ、上を向いても下を向いてもピンクの嬉しくも楽しい山行だった。

十数年前まだ元気一杯だった頃、５月連休に、残雪の大笠山、笈ヶ岳を縦走した。氷の城の様にそびえる白山の美しさはたとえ様がなかった。残雪の山を堪能して、一里野の里に降りたったら、一面のカタクリの花が出迎えてくれた。荷の重さを忘れ、春の喜びに心が躍った。

昨年４月８日、高川山一山では物足りないという仲間を誘って、大月まで歩いて行こうと計画した。全部で 13 ピークの最後のオムスビ山の斜面一杯にカタクリの花が満開でビックリした。訪れる人の殆どいな秘密の花園だった。

人間や、動物だけでなく、花も思いがけない出会いは、なんとも言えず嬉しく忘れがたい想い出になる。

カタクリ

ユリ科カタクリ属に属する多年草。原産は東北アジア早春に薄紫から桃色の花を下向きに咲かせる。その後葉や茎が枯れ、地下で休眠状態になる。根茎は白色、多肉、澱粉を蓄え、片栗粉にする。

花ごよみNo.14　クマガイソウ　木伏 敏

2012 年 5 月下旬　関東百名山・栃木百名山でもある日留賀岳の登山口で、クマガイソウの群落に遭遇した。　登山口脇の民家の裏手にまわると、いまが盛りとばかりに見事に咲いていた。　私が初めて目にする植物であった。　絶滅危惧種に指定されていて、扇型の特徴的な葉と、そして大きな花をつけるクマガイソウは、一般的に大きな集団をつくる植物でもある。

ラン科　アツモリソウ属　植生：低山の森林（特に杉林）
分布：北海道南部～九州　花期：春　高さ：40 ㎝位
別名：ホロカケソウ（母衣掛け草）　多年草

花ごよみNo.13　イイデリンドウ（飯豊竜胆）　木伏 敏

2012 年 8 月上旬　飯豊連峰の飯豊本山で、直射日光がじりじり照りつけるなかイイデリンドウを愛でることができ、ほっとできる瞬間を味わった。　群生しているというほどではなかったが、山頂付近で可憐に咲きほこっていた。　絶滅危惧種に指定されていて、利尻岳のリシリリンドウによく似ていた。

リンドウ科　リンドウ属　植生：高山帯の草地　分布：飯豊山固有種　花期：7～8 月　花の色：青紫色　高さ：5～15 ㎝　多年草

花ごよみNo.12

福寿草

深沢 明

1 月号に向けて花ごよみの原稿を依頼され、そこで御正月らしくこれからも見る事のできる花を、ということで福寿草になりました。福寿草は山の花？それとも園芸種？

キンポウゲ科の多年草　別名ガンジュツソウ（元日草）
１月１日の誕生花　（深沢の誕生日）　毒草
花ことば　　永久の幸福、思い出、祝福

数年前までは葉牡丹ともに御正月の寄せ植え飾りになって売っていましたが今その座は色とりどりのシクラメンに代わってしましました。またどこの家の庭にもあったものですがガーデン用のシクラメン、ノースポール、プリムラ等で彩られているようです。すると山で見るしかないのかな？

2011 年２月 27 日蓬生さんリーダーで「秩父・四阿屋山～早春の花　福寿草を訪ねて」でこの花の群落を見ました。その報告文には「下りは両神神社社奥からロウバイ園に立ち寄った。真っ青な空に見上げると木々には黄色いロウバイが満開、地面には黄色の福寿草（渡辺綺）」とありました。この地には「秩父紅」というここだけの赤い福寿草が咲いていました。四阿屋山コース難易度は体力度 1、危険度３（山と渓谷社　埼玉県の山）長い鎖と綱が凍結。蓬生さん以外は女性５人、当たり前ですがだれも落ちませんでした。

花が終わるころには緑の葉がでてきます。（雲巌寺にて撮影）

花は小さくてかわいらしいけど花が終わった後、花から考えられないほどの緑の葉がぼうぼうと茂り根が大きく張ります。夏になると葉は枯れますが毎年忘れずに２月上旬に浦安では咲きます。

花ごよみ No.11

シモバシラ

末石 た

2011 年 1 月 10 日　　高尾山口→稲荷山→高尾山→大垂水峠→中沢峠→西山峠→三沢峠→草戸山→高尾山口

「高尾山一丁平の巻き道にて観察」

高尾山の一丁平のまき道は日当たりが悪く薄暗い。その両脇に 3～4 センチのシモバシラの花が所々に、そして中には群生してあった。そのうち山側のみとなるが咲き方が一様でなく見事な円錐状がきにいった。綿の花のように真っ白でふわふわのように見えた。触ると堅くしっかりしていた。大垂水の分岐を過ぎて谷側に１０センチ近いシモバシラの群生に感激する。それをピークに所々のシモバシラとなる。捨てられた？ティッシュと見間違うこと多々あり。シモバシラを探しているせいかゴミが多いと感じた山行でもあった。

シソ科の植物で、秋には白か薄紅色の小さな花をまるで鋸の歯のように多数つけます。冬に茎が枯れても根は地面の中で元気に生きていて、翌年また芽を出して成長し花を咲かせる多年草の植物です。関東から九州まで幅広く分布しており、山林の中や渓流の周辺で多く見かける事が出来ます。

モバシラの言葉の所以は冬にあります。シモバシラは初冬に多く目をするのです。　秋に咲いたこの花は、枯れた後の寒い日にもう一度美しい氷の花を咲かせるのです。

http://www.takaosan.info/topics66.htm　より

花ごよみ No.10

れんげしょうま

芳賀　真紀

2012 年 8 月 26 日にレンゲショウマ祭りの行われている御岳山にレンゲショウマを見に行く山行に参加した。花には疎い私だが、名前の響きがジャニーズ系を思わせるところが引かれた理由の一つだった。

御岳山の群生地では、たくさん花が咲いているのに、なぜか静寂な雰囲気だったのに驚いた。

た。（なので、末石さんに写真をお借りした。ありがとうございます）

何となく和歌とかが似合う感じで、『わび』、『さび』の分かる大人な花だ。花の大きさは 4cm くらいで下向きに咲いているので写真を撮るのが難しかった。悲しいことに私が撮った写真は全てピンボケで使える写真が見当たらなかった。

写真にもあるように、花だけでなくつぼみも 蹴鞠のようで愛らしい。やっぱり、平安時代がよく似合う。あとで知ったが、御岳山のレンゲショウマは日本一で約三万平方メートルに約５万株が群生しているそうだ。独特の花の形と可憐さが人を惹きつけているようで、『新・花の百名山』にも紹介されている。花を知るのも、いいなあと思った日だった。

日本特産の１属１種の花。キンポウゲ科、レンゲショウマ属の多年草。
花が蓮に、葉がサラシナショウマに似ているのでレンゲショウマ(蓮華升麻)の名がつけられた。花びらに見えるのはがく。花言葉は、「伝統美」

花ごよみNo.9

海外の山の花たち

高橋 美

2012 年 6 月 5 日から 16 日間ブータントレッキングに参加した。彼の国はヒマラヤ山脈の東端に位置するのでブルーポピーに会えるのを楽しみに歩いた。ブータン（人口 74 万人、首都ティンプー）は**ブルーポピー**が国花であり、「国民の幸せ実感度世界一」として知られ、昨年 11 月国王夫妻が来日し、新鮮な誠実そうな彼等は訪問する先々で好印象を与えた。高地の居住民には薬草採取（冬虫夏草など）も大きな収入源で、親が山奥に採取に入っているとき子供達には学校で集団寄宿生活が保障されていた。教育費は大学まで無料で国語のブンカ語も教えるが主に英語で授業を行っているのを見学した。この国の外貨獲得の第一は水力発電による電力をインドに売電して得られているという。この仏教国家の舵取りは先行きどうなるのか興味がある。

ブルーポピー

アツモリソウ

ブルーポピーはたくさん見ることができた。ヒマラヤ地方ではブルーポピーの新種が今でも次々と報告されている。**アツモリソウ**を標高 3500m 辺りでいくつも見たときは感激した。日本なら盗掘の憂き目にあっている。わが国の山野草ネット販売では１株１万円前後で取引されているのだ。

2011 年８月 29 日から 26 日間パキスタンバルトロ氷河トレッキングに参加した時は、氷河舌端の手前の河岸（標高 3600m）にタカネバラそ

ラミオホロミスロタタ

っくりの大木がピンクの花を沢山咲かせていた。氷河上を歩くと草木はないがウルドカス（標高 4000 m）という左岸に上がったキャンプ地の草地にはリンドウ・ナデシコ・キジムシロなど多種類の花が咲き乱れていた。草丈は 5-6ｃｍくらいか。日本では標高 3700mだと草木は何もないが、この寒冷地ではどの花も頑張って咲いていた。

今年９月１日～13 日迄キリマンジャロ登山ツアーに参加しウフルピークへ登ってきた。南半球のタンザニアはサバンナ気候で９月は乾季であり、これから春に向かう季節で枯れ葉色の草原が拡がっていた。赤道まで 500ｋｍの距離にあるので密林のような森も広がり、ロベリア・ビオラ・ツルボラン・アザミなど多くの花を写真に撮った。

蒼いサクラソウ

キリマンジャロの名のついたインパチェンスキリマンジャロとかプロテアキリマンダカニカとかの花もあった。

ブーゲンビリアやジャカランダが鮮やかな色合いに街を飾っていた。

高度順応で２日滞在したホロンボハット 3720mではキク科で高さ 5mもある**ジャイアントセネシオ**が多く生えていた。アフリカ特有の植物で花を５−６年に１回咲かせて枯れるという。

ジャイアントセネシオ：ネットから転載

日本で見られるそっくりの花もあれば全く異な花もあり、種の保全や進化とは面白いものである。

花ごよみNo.8

こまくさ

堤 淳

　言わずと知れた高山植物の女王。他の花が咲かない（咲けない）砂礫の荒地に、強風にか細い身を震わせながら咲くいているさまは、女王と言うより、可憐な妖精のようです。

　北海道から北アルプスまでコマクサに会う機会は以外と多い。病気回復を祝って家族登山をした岩手山の黒いザレ斜面を点々と彩って咲く、可愛い姿に感激しました。

　暑さと荷の重さにバテバテでやっとたどり着いた餓鬼岳。その先の唐沢岳は、斜面全体がピンクに染まる大群生でした。　今年登った八ヶ岳の横岳には、多くの花株が保護され咲いていました。中に珍しく一株真っ白いコマクサがありました。ここが東京から一番近くで会える場所かもしれません。日帰りハイキングでは会う事が出来ない、と言う点もこの花の魅力を増しています。

最近読んだ、大雪山の花という本に、単独で咲くコマクサではあるが、稀にタカネスミレと隣会って咲いている事があると、写真付きで載っていました。アッそんな様子を私も写真に撮った事があると思い、探し出しました。一株一輪づつ仲良く咲いていました。八ヶ岳で撮ったものです。

ケシ目　ケマン草科　コマクサ属

北海道から中部地方の高山の砂礫帯に分布　和名コマクサは花の形が馬（駒）に似る事に由来

花ごよみ N07

クロユリ

末石 た

クロユリの名前は子供の時から知っていました。ヒット曲で流れていたのでメロディーをしっかり覚えています。黒いゆり、なんて珍しい花だろうと思っていました。普通の百合が黒いとばかり思っていたので山で見かけた時にはその小ささに驚きました。そしてその数も1山に数個見かければラッキーと思える程でした。ところがそれをたくさん見かけたのです。

今年の8月初旬、白山の室堂で雪渓の近くに観察に行ったらその群生にびっくりです。その日の登山時は時々顔を出していたのですが食事前の案内で連れて行ってもらいました。ハクサンコザクラ、アオノツガザクラ、チングルマ、ミヤマキンポウゲがそれぞれ群生して花園となっていました。とにかく黒百合の群生は初めてだったので大感激でした。

生息地

日本中部以北、千島列島、ロシア連邦のサハリン州、カムチャツカ半島、ウスリー地方、北アメリカ北西部に分布。高山帯の草地に生える。最も有名な生息地は白山で、室堂周辺などに大量に群生しているのが見られる。

特徴

花期は夏。花は褐紫色で直径３cm 程度、釣鐘の形をした花が下向きに咲く。

花ごよみ N06

マツムシソウ

深沢 明

山に花が有るのは尾瀬の水芭蕉位しか知らず、山歩きをしても頂上を目指すのみで足元に花が咲いているなんて気にも留めませんでした。

1982 年 8 月 22 日この頃長女が保育園を卒園した父母たちと恒例にしていた軽井沢レクの森キャンプ場でキャンプをした帰りに八ヶ岳大河原峠でこの花に会いました。

水色で大型肉厚、存在感のある花は一面に咲いていたのです。（残念ながらその時の花の写真はありません。）その名前を知ったのは「さんかくてん」に入ってからです。そのあとあちこちの山で会う事が出来ました。大河原峠で見たマツムシソウと異なりみな小振りで可憐な感じがします。

モンゴルに旅行した際もあの大草原に足の踏み場がないほどマツムシソウは咲いていて馬が踏みつけていました。

先日ある花展で真っ赤なマツムシソウをみました。会報 6 月号には明神峠でもう咲いていたと記載されています。あの大河原峠には今も咲いているのでしょうか。

マツムシソウ科　マツムシソウ属

北海道から九州まで分布する多年草

草丈 50～90 ㎝で美しい淡青紫色の花を咲かせ草原の初秋を飾る。

花ごよみ N05

ザゼンソウ

日比野 晶

私が「ザゼンソウ」印象深く出会ったのは、利尻山へ登った 2004 年 6 月 18 日だった。東京都建設局の山仲間に誘われ、「利尻・礼文ツアー」に参加した時である。朝 5 時ごろ民宿の主人が車で 3 合目まで送ってくれた。

利尻山は、日本海に浮かぶ独立峰なので、特に風が強く、登りは無我夢中で花を眺める余裕がなかった。10 時 50 分に山頂に着き、記念撮影をしたら少し余裕が出てきて、下りは登山道の両側をときどき眺められるようになった。八合目の長官山（1218m）付近までくだったとき、山側に一輪つつましく咲いていたザゼンソウに遭遇。思わずシャッターをきっていた。

座禅草（別名ダルマソウ）サトイモ科、ザゼンソウ属

葉は印状心形で、楕円状の花序を包む。花は両性で、花被片は 4 個。果序は球形。果実は液果。世界に 3 種あり、北米と東アジアに分布する。　（山渓ハンディ図鑑 2）

花ごよみNO. 4

イカリソウ

川原林

花が船のいかりの形に似ているから「イカリソウ」。よくこのように説明されますが、この場合のいかりとは現在の二本鉤(かぎ)のものではなく、かつての和船で用いられた四本鉤のいかりです。
イカリソウの開花期は 4～5 月。平野部や低い山地の落葉樹林などに生育しています。草丈は最大 40cm ほどで、小さい葉をたくさん付けるように見えますが、これはじつは大きな「複葉」の一部分で、「小葉(しょうよう)」と呼ばれるものです。九州や四国には、葉の表面に毛があり、白花を咲かせるイカリソウの仲間が自生していますが、これはヤチマタイカリソウとして区別されています。また本州の日本海側、朝鮮半島、中国にかけては、黄色い花を付けるキバナイカリソウが分布しています。
http://aquiya.skr.jp/zukan/ikarisou.html より

私の小さい頃は、里山がいっぱいありました。どの里山もきれいに手入れされ枯れ枝も落ちていません。木はほどよい光に包まれ木立の中はとてもきれいでした。

春は「ふきのとう」「すみれ」「カタクリ」と花を咲かせ、少したつと「ぜんまい」や「わらび」が顔を出します。子供の私たちは食料の「ふきのとう」「ぜんまい」や「わらび」を採って帰り母喜ばしたものです。そんな時、木漏れ日の枯れ草の中から「イカリソウ」の」黄色の花を見つけたときの喜びはひとしおでした。やわらかいクリーム色でいっぱい花をつけ枯葉をどかしながらしばらく眺めているのが小さいときの思い出です。

山登りを始めてからこの花の紅紫の花を見てまたまた驚いてしまいました。「花弁」がはっきりととがっていて花は「ラン」のような型です。私の庭には今この花の２種類が４月１０日頃より咲いています。姉が、私がこの花を好きなことを知って園芸店から購入してたくさん増やし、昨年やっとやっと私の家に引っ越してきました。秋は葉っぱが紫っぽい茶色に変わり庭のアクセントになります。いっぱい増やして眺めたい花です。

花ごよみ NO3

イワウチワ　岩団扇

高橋 美

2007 年５月 19 日細谷さんリーダーの山行（７人）でヨモギ尾根から雲取山に登り、翌日大ダワ分岐・芋の木ドッケを経て長沢背稜を歩いた。この時長沢山の手前の標高 1708mの岩稜「桂谷の頭」でイワウチワにお目にかかった。岩筋に咲き葉が団扇に似ているが無粋な命名である。
奥多摩では３月末から咲く。今年の寒さでは何時満開なのかしら。微妙な開花時期にあわせて山に入っても花に逢えなかったり悲喜こもごもである。櫛形山・光明山・鳴神山・高鈴山・御岳・小津権現山・坪山・宇奈月・谷川岳・鬼無里柄山峠などで見られる。

＊早春の落葉樹林内の傾斜地や岩地に淡紅色の広釣鐘形の３センチの花を咲かせ、果実は卵円形で熟すと３つに裂けて多くの種を弾き出す
＊根は細く地を這い茎丈 10～15 センチでその枝先に葉を束生し１茎に１花をつける＊学名の Shortia uniflora　のユニフロラは１花を意味する（ショティアは人名）
＊両性花は合弁花冠で顎筒部分から５裂し５枚に見える花びらの先端は細かく裂ける＊雄蕊が５本突き出して見え　その基部には鱗片状のの塊がある
　＊心型をした葉は革質で鋸歯を有し葉の先端がへこんで扁平であり　茎と葉の基部（つなぎ目）の形状と産地で次のように区別できるが花の色と形状はほぼ同じである

◎近畿から北陸に咲く花は葉の基部が円形か楔形をしてトクワカソウとよぶ
◎関東では葉の基部がハート型（カンアオイやシクラメンと同じ心形）をしているイワウチワが咲く。白花もある。コイワウチワもあるようだ。
◎東北地方には葉が一回り大きなオオイワウチワが咲く

イワウチワ
＊イワウメ科は世界に６属１９種がある。
イワウチワ属はアジアと北米の周北極地域に分布するが、他にイワカガミ属やイワウメ属がある

◎イワウチワは本州のみに産するが沖縄にはリュウキュウ（シマ）イワウチワがある＊群馬産のイワウチワ全草が民間薬として打撲傷や蛇咬傷に用いられた。

花ごよみ NO2

ヒメシャラ(姫沙羅)かな？

関根

2012 年 1 月 15 日 本社ケ丸へ登りました。
清八峠まわりで下る雑木林の登山道に一本の**ヒメシャラ**の木？がありました。後ろの方で「この迷彩柄の木は何？」と言う末石さんの声が聞こえました。迷彩柄と言う表現はこの木にぴったり！
さんかくてん HP の写真の下にはサハラ模様と書いてあり、木肌の感じを上手に表していると感心しました。

成長するにつれ古いザラザラした樹皮は剥がれ落ちツルツルで赤褐色の木肌になります。剥がれる途中の斑の状態が迷彩柄、サハラ模様です。蔓性の植物を巻きつかせないためにツルツル状態になるそうです。

ヒメシャラの花

リョウブの花

リョウブの木肌も迷彩柄です。６～７月花が咲くとハッキリしますが葉や花がついていないこの季節には見分けがつきません。けれどリョウブはヒメシャラより低木で根元から何本もまとまって生えていることが多いので、今回はとりあえず**ヒメシャラ**と言うことにします。

私が初めてこの木に出逢ったのは 15 年ほど前伊豆半島の万二郎万三郎岳へ登った時です。
面白い柄の大きな木が次から次へとあらわれて驚きました。木にさわるとヒンヤリと冷たいのです。その日は暑い日でヒメシャラの木に頬をつけたり、撫ぜたり、汗をかいた身体に気持ち良く感じました。庭木に植えられている**夏ツバキ**も幹や花はヒメシャラにそっくりです。

山と渓谷花図鑑より（ツバキ科ナツツバキ属　本州箱根以西～九州に分布）

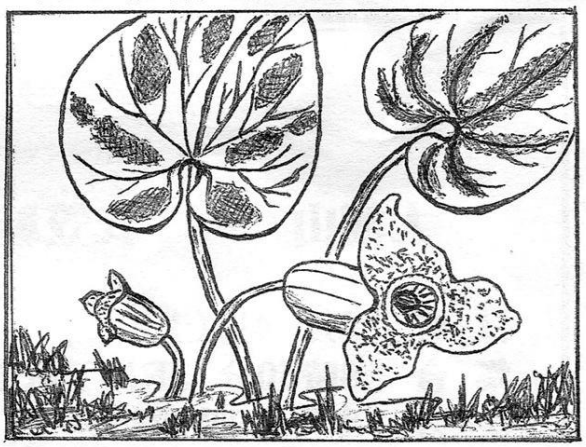
花ごよみ NO1

カンアオイ 寒葵

日比野

2012 年１月４日の大野山鍋山行では登山道に入り 30 分ほど歩くとカンアオイに出逢うことが出来る。2007 年（第二回鍋山行）に初めて参加して見つけたときからカンアオイがこの山行の楽しみになった。山腹を左から捲くようについているほぼ水平の登山道に在り、カンアオイの葉のハート型と斑紋で見つける。

カンアオイは晩秋から冬にかけて落ち葉の下でひっそり咲きそのままの形で朽ちる。いじらしい花ではないか。辺りに目を凝らすと 10 株くらい目に入った。花には蝶ではなく蟻が寄ってきて種子を撒き散らす。



この葉は日本固有種「春の女神ギフチョウ」の食草として有名だが、今回も葉に喰み痕はあったのでどこかに蛹が春の到来を待っているのだろう。蛹の期が 10 ヶ月くらいあり、冬を越し３-４月に羽化するという。

目指す場所で特徴のある葉っぱを見つけると枯葉を取り除き、2cm ほどの花をつけた株を探す。花の周囲の枯れた松葉や団栗の落ち葉をかきわけ被写体に適したように整える。昨年もこの花を撮ったのだが周囲に手を加えずに撮ったら、何しろ地味な花なので会報や HP に載せるほどの出来にはならなかった。今回はこの記事に載せる写真を撮るためいくつかの株を撮影する。「直ぐ追いつきますから、私の担当食材はジャガイモだから」と言った割には結局皆に追いつけず、去年は追いつけたのに年々歳々自分の体力が落ちたのを実感する。

デジカメを構え「花ウルトラ接写モード」で写真を撮り、来年も咲いてよねと株に枯草をそっとかけておく。盗掘もあるようだが各地でちょこっとでも見かけたいものだ。里山ハイクや丘陵地を歩くときに路傍に視線を向けてこの葉っぱを見つけてみたい。ギフチョウに逢えたら感激もの。

＊ウマノスズクサ科で類縁にウスバサイシンがあり、園芸種にパンダカンアオイがある
＊カンアオイは関東から紀伊半島にかけて分布し山地林床に生える常緑多年草
＊４センチの花を付けるタイリンアオイは九州北部から山口県に分布
＊根茎が地中を這い地に伏して殖え、心型をした葉が落葉の上に短く出る
＊濃い緑の葉は雲紋状の斑が多様に入り、葉と濃紫色の葉柄は有毒で精油を含む
＊両性花は花弁が退化し地表際に咲き、カルンクルをもつ種には脂肪を含み蟻が寄る
＊花萼は下半分が癒着した筒状花で上部が３裂し、雄しべ 12 本と雌しべ６本を持つ
＊暗紫色の花は腐肉臭を発し、キノコバエが花粉を運搬し他家受粉を成立させるらしい
＊根は「土細辛」として鎮咳去痰に供される　　＊マルバアオイは春に花が咲く